

transmit

建てられることのなかった歴史上の建築に、フランク・カフカや安部公房といった不条理文学との共通点を見出す寺岡波瑠は、その幻想的な世界、想像を掻き立てる力に魅了され、言葉、図面、ドローイングや版画などを組み合わせて「建築」を制作している。また彼女は、ホワイト・キューブという展示空間を「現実」とし、廃墟をその対極にある「虚構」と見立て、それらを隣り合わせにするという「建築」を二度作り上げている。本来の役目を終えた建築物＝廃墟が幻想の世界へ誘うアンビルドの建築に近しきものであり、ホワイト・キューブが彼女にとって現実の荒野なのだとすると、それをスタンダードな空間とする美術界における「建築」と「美術」のあいだを探ることが、引き続き彼女の目下の仕事となるだろう。

アクリル板に描かれた黒い線と白い地とで構成される《画用紙》のシリーズで、線を「描く」という行為にまつわる要素を極限まで削ぎ落として追求してきた本山ゆかりは、キルティングで線を描く新しいシリーズ《Ghost in the Cloth》に取り組んでいる。ここでは、古くから絵画のモチーフとして繰り返し選ばれてきた、いわば美しさの象徴としての花が、布の上にその形だけで表されている。またその布はパネルに貼られることなく、壁面に2点で留められるのみである。この宙に浮かんだ花の像は、本山が絵画の歴史の中に見た亡霊、あるいは影像なのだろうか。いずれにしても、絵画というものを徹底して俯瞰的に見つめる本山の姿勢は、表現手法を問わ

ず一貫しており、その軸が揺らぐことはない。

山本真実江は、日々のドローイングから生まれる物語を元に木版によって原画を制作し、その情景を陶で表現している。木版では線となる部分を残してその周りを彫り、土で再び形そのものを作る。このポジとネガの入れ替わる作業過程で、特に土での造形においてはコントロールしきれない要素がもたらす変化と常に向き合うことになる。山本の物語では、遠くまで自由に飛んでゆき、さまざまなものを見聞してはそれを語る鳥に対して、女は水に囚われ、翻弄される存在として描かれるのだが、この水と女の関係はすなわち、土と彼女自身との関係でもあるかもしれない。流され、水の中に沈もうとする身体に抗うかのように、女はその輪郭線を保ち続ける。山本自身もまた、木や土に線を刻み付けることで、素材と自らの表現との終わらない物語を紡いでいくのである。

本展出品作家の4人の、それぞれの表現の周囲にあるものに対して常に意識を働かせ、ときに迷いながらも作品に向かい合う姿勢は非常に真摯であり、随分と多くのことを要求されるようになってしまった現代の美術界の荒波をも渡っていくことのできる強さをきつと身につけていくことだろう。このアートフェアが、彼らに新しい発見をもたらしてくれることを願っている。

藤田瑞穂 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
チーフキュレーター/プログラムディレクター)

京芸 transmit program 2019 ART OSAKA version

開催日程：2019年7月6日(土) - 7日(日)
会場：ホテルグランヴィア大阪26階 6101号室
〒530-0001 大阪市北区梅田3-1-1
06-7506-9347 (ART OSAKA 事務局)
<https://www.granvia-osaka.jp>

出展作家：黒川岳、寺岡波瑠、本山ゆかり、山本真実江

ART OSAKA 2019
開催日程：2019年7月6日(土) - 7日(日)
時間：6日(土) 11:00-20:00、7日(日) 11:00-19:00
備考：入場はフェア終了の1時間前まで
ART OSAKA 2019の入場チケット (1,800円) で御覧いただけます
<https://www.artosaka.jp>

企画：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
主催：一般社団法人 日本現代美術振興協会
協力：京都市立芸術大学、京都市立芸術大学キャリアデザインセンター
後援：京芸友の会

黒川岳 パフォーマンス
日時：2019年7月6日(土) 12:00-12:10
2019年7月7日(日) 12:00-12:10
※悪天候等の理由により、中止になる場合があります。予めご了承ください

transmit

御挨拶

京都市立芸術大学は、開学以来139年という長い歴史を持ち、当初から、芸術界・産業界に優れた人材を輩出してまいりました。伝統、歴史、芸術、文化が蓄積して幾重にも重なる京都を土壌に、革新的で新しい表現を生み出す人材を育成し続けることは本学の使命であり、現在も国際的なアートシーンで、領域を横断して活躍する多くの才能を送り出し続けています。ここに御紹介します黒川岳、寺岡波瑠、本山ゆかり、山本真実江は、本学大学院修士課程を修了して間もない若い世代であり、今後の活躍が大いに期待されるアーティストたちです。本学の伝統をバネに、歴史を更新しようとする意欲的な彼らの表現を御高覧ください。

京都市立芸術大学 学長
赤松玉女

ART OSAKA 2019の企画展として、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA企画による、京都市立芸術大学出身の作家たちによるグループ展「京芸 transmit program 2019: ART OSAKA version」を開催致します。本展は、ART OSAKAと京都市立芸術大学がコラボレーションした特別企画であり、これまでも毎年、将来に大いに期待できる若手作家たちを紹介してきました。今年度は、今春ギャラリー@KCUAにおいて開催された、「京芸 transmit program 2019」に出展した、黒川岳(彫刻)、寺岡波瑠(環境デザイン)、本山ゆかり(油画)、山本真実江(陶磁器)の若手作家4名による作品展示を行います。新進気鋭の作家たちのおふれるパワーを、ぜひこの機会に御覧ください。

世界中のあちこちで行われる展覧会、芸術祭、アートフェア——現代の美術界では「旅する表現者」として優れた技術を持つアーティストが重宝される面が少なからざる。見知らぬ土地での短い滞在期間で、感覚を研ぎ澄ませて異なる文化に触れ、そこで感じ取った何かを作品に落とし込んでいく……。その技術を培うための見知らぬものとの出会いの機会は、旅に出ずとも日常の中にも常に存在するものだ。「ホーム」となる場所での日々のふるまいの中で高められた感性の鋭敏さは、やがて旅先で出会う全てのものに対して有効となり得る。それはおそらく、現代の美術界を生き抜くための技術のうち、極めて重要なものの一つとなる。

黒川岳の制作は、地球上に存在するあらゆるものの動きに注目し、それを自らの身体で捉えようとすることから始まる。彼がその活動の初期からとりわけ大きな関心を寄せる「音」は、まさに物体の振動によって起こる現象である。音源の振動が空気を振るわせ、音となって広がるように、彼の探求心は、ある動きをスタート地点に、はるか遠くまでを駆け巡る。そうすることで得た何かにかたちを与えるべく、人、モノ、出来事に自身を関わらせ、そこで生まれる「もの」もしくは「こと」によって場に新たな動きを作り出す。さまざまな「動」の現象が黒川の身体を介してその空間を振るわせ、また共鳴して音楽を奏で始めるかの如く、作品として立ち上がったのである。



京芸

Yukari Motoyama

program

Gaku Kurokawa

黒川岳



黒川 岳

1994 島根県生まれ
2016 東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 卒業
2018 京都市立芸術大学大学院美術研究科
修士課程彫刻専攻 修了

太鼓 [太鼓、台、共鳴部/人の容れ物
オス、共鳴部/人の容れ物メス]

2019
楠、牛革、竹、紐、木材
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
「京芸 transmit program 2019」
展示風景

— 主な展覧会、パフォーマンス、受賞歴など

2018 「奈良・町家の芸術祭 はならあと2018」
(吉野町曾爾村/奈良)
「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2018」
公募大賞準グランプリ (六甲山/兵庫)
「三輪眞弘による高松市美術館開館30周年
祝賀演奏会“愛の讃歌” 賛助出演
(高松市美術館/香川)
「音羽川百景」パフォーマンス出演
(音羽川砂防ダム/京都)
2017 「集団」展示 (コーポ北加賀屋、千鳥文化B棟/大阪)
「ざくら、メタセコイヤ、聴く」
(京都市立芸術大学大ギャラリー/京都)
2016 「暗渠パラダイス」(Gallery NIW /東京)
2015 「道を引く」(手賀沼周辺/千葉)

Haru Teraoka

寺岡波瑠



寺岡 波瑠

1993 滋賀県生まれ
2016 名城大学理工学部建築学科 卒業
2018 京都市立芸術大学大学院
美術研究科修士課程
デザイン専攻環境デザイン 修了

— 主な展覧会、パフォーマンス、受賞歴など

2018 「第7回 FEI PRINT AWARD 入選作品展」
(FEI ART MUSEUM YOKOHAMA /神奈川)
「第49回 毎日・DAS学生デザイン賞 入選作品展」
金の卵賞 グラフィック部門 部門賞
(大阪デザイン振興プラザ/大阪)
「第9回 ハーフエ学生デザインコンペティション2017
受賞作品展」(Future Design Gallery Uluru /神奈川)
2017 「第6回 ESG DESIGN 学生デザイン大賞」
アイデア賞 (ポートメッセなごや3号館/愛知)
「第8回 ハーフエ学生デザインコンペティション2016
受賞作品展」(ハウス・ジャパン オフィス/東京)
2016 「第21回 福岡デザインレビュー2016」クリエイター賞
(審査員長賞) (福岡大学ヘリオスホール/福岡)
「せんだいデザインリーグ2016」
せんだいメディアテーク/宮城
2015 「第4回 ESG DESIGN 学生デザイン大賞」
アイデア賞 (ポートメッセなごや3号館/愛知)

不条理建築

2017-2018
紙、鉛筆、映像 (4分)
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
「京芸 transmit program 2019」
展示風景

Yukari Motoyama

本山ゆかり



本山 ゆかり

1992 愛知県生まれ
2015 愛知県立芸術大学美術学部油画専攻 卒業
2017 京都市立芸術大学大学院美術研究科
修士課程絵画専攻油画 修了

— 主な展覧会、受賞歴など

2019 「フィジクトス」(アキバタマビ21 /東京)
「野生の思考」(gallery TOWED /東京)
2018 「paint()ings」(Yutaka Kikutake Gallery /東京)
個展「東京・古い・ジャーニー」(VOLVOスタジオ青山/東京)
2017 「この現実のむこうに— Here and beyond」
(国際芸術センター青森/青森)
「裏声で歌へ」(小山市立車屋美術館/栃木)
「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2017」
後藤繁雄賞 (審査員賞) (行幸地下ギャラリー/東京)
2016 「奈良・町家の芸術祭 はならあとこゝあ「人の集い」」
(高取土佐町並み/奈良)
「絵画検討会2016」(TURNER GALLERY /東京)
「3331 Art fair 2016」(3331アーツ千代田/東京)
「fabric, light and dirty」(ARTZONE /京都)

画用紙 (食卓)

2019
アクリル板、アクリル
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
「京芸 transmit program 2019」
展示風景

Mamie Yamamoto

山本真実江



山本 真実江

1992 京都府生まれ
2015 京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻 卒業
2016 École nationale supérieure des Arts Décoratifs
Image imprimée 交換留学
2017 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程 工芸専攻陶磁器分野 修了

— 主な展覧会、受賞歴など

2019 山本真実江陶展「Drawing my daily」(京都陶磁器会館/京都)
2018 「出町マルクト」(旧三井家下鴨別邸/京都)
「アジア現代陶芸交流展」(弘益大学/ソウル)
「お菓子のうつつ展」(喫茶ストーブ/大阪)
「京都花鳥館賞奨学金2017」優秀賞 (京都花鳥館/京都)
2017 個展「ものがたりの断片」(galerie 16 /京都)
2015 「プロセスのまわり道」(大枝土蔵/京都)

崖の女・原画

2019
紙、版画インク

崖の女

2019
陶土
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
「京芸 transmit program 2019」
展示風景